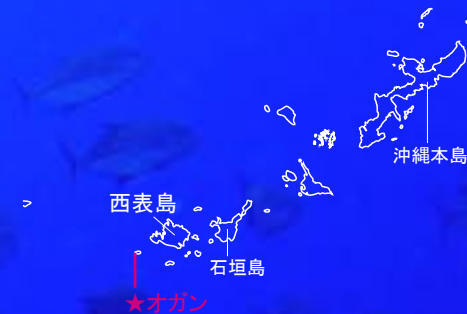


真夏の西表島は いりおもてじま ガンガン、オガン



エリア
プロフィール



～ 仲ノ神島の奇跡～

海と緑のネイチャーアイランド、西表島にいよいよ夏がやって来た！
夏の西表島といえば、沖縄ナンバー1の回遊魚スポットと名高い、ダイバー憧れの島、
仲ノ神島（なかのかみしま。通称：オガン）。
取材班を待っていたのは想像を絶する体験だった。

■撮影 / 石丸智仁 ■構成・文 / 寺山英樹 ■取材協力 / ダイビングチームうなりざき



流れがガンガンだから、 回遊魚もガンガン登場！

見上げると、1.5メートルはあろうかという巨大な親分イソマグロを先頭にした数十尾の大群が目の前を悠々と通り過ぎていく……「東の根」



ドロップオフを見下ろすと、ヒメテングハギやグルクン、ウメイロモドキが、壁のように群れている「東の根」



カスマアジ

空気を入れたペットボトルを叩くと、その衝撃で1000を超えるカスマアジが集まってくる



イソマグロ

オガンの代名詞ともなっているイソマグロ。通常、数尾、多いときには数100尾で群れるが、老成魚は単独行動をとることも。黒く、丸太のように太い姿は迫力だ

魔法のタクトが奏でるカスマアジ狂想曲

西表島の南西30キロに浮かぶ絶海の孤島、仲ノ神島（なかのかみしま）。ダイバーには「オガン」の名で知られ、畏れ含みに憧憬の的となっている。パラオに「ブルーコーナー」があるように、西表島にはオガンがある。そんな、西表島を象徴する、いや、西表島そのものともいえる、ビッグスポット。東西に長い島の周囲に点在するスポットの中から「3の根」ヘエントリー。流れるプールのような流れの中、根から根をほしごしていくと、興奮気味にガイドのソガツペがしきりにかなたの根を指す。遠目からは何かが蠢いているだけにしか見えないが、近づくとつれて、その凄まじい光景に息を呑む。根と根の間から次から次へと沸き上がるカスマアジの超群！ソガツペが支持棒を激しく振る。さらにペットボトルを叩くと、遠ざかっていくカスマアジが踵を返してこちらに迫ってくる。魔法のタクトが奏でる迫力のカスマアジ狂想曲。こんな光景見たことない。



ツムブリ

細長い体形が特徴で、好奇心の強い魚。ダイバーの吐いた泡に自ら近づいてくることも



ロウニンアジ

アジの仲間では最大で、1mを超える個体も。成魚は通常単独で見られるが、オガンでは魚群で見られることも希にあるという



根待ちスタイルもいろいろ



「東の根」は、ドロップオフで根につかまりながら眼前を泳ぐ回遊魚を楽しむスタイルが一般的だが、カレントフックがあると体が安定して便利。希にドロップオフに座る人も……

回遊魚天国・オガンのもうひとつの顔が“地形スポット”。島の近くでは、巨石が折り重なる自然の芸術を体験することができる「天馬崎」

地球のダイナミズムを感じる

オガンの地形



激流のイメージが強いオガンだが、意外にも島陰では白砂広がる癒やし系のシーンを見ることができる



オガンを潜るときは、ブリーフィングから昼食、休憩など、港に戻らず船上で1日を過ごすことになる。今回、お世話になった「ダイビングチームうなりざき」のようなダイビング専用の大型ボートだと、快適に1日を過ごすことができるだろう



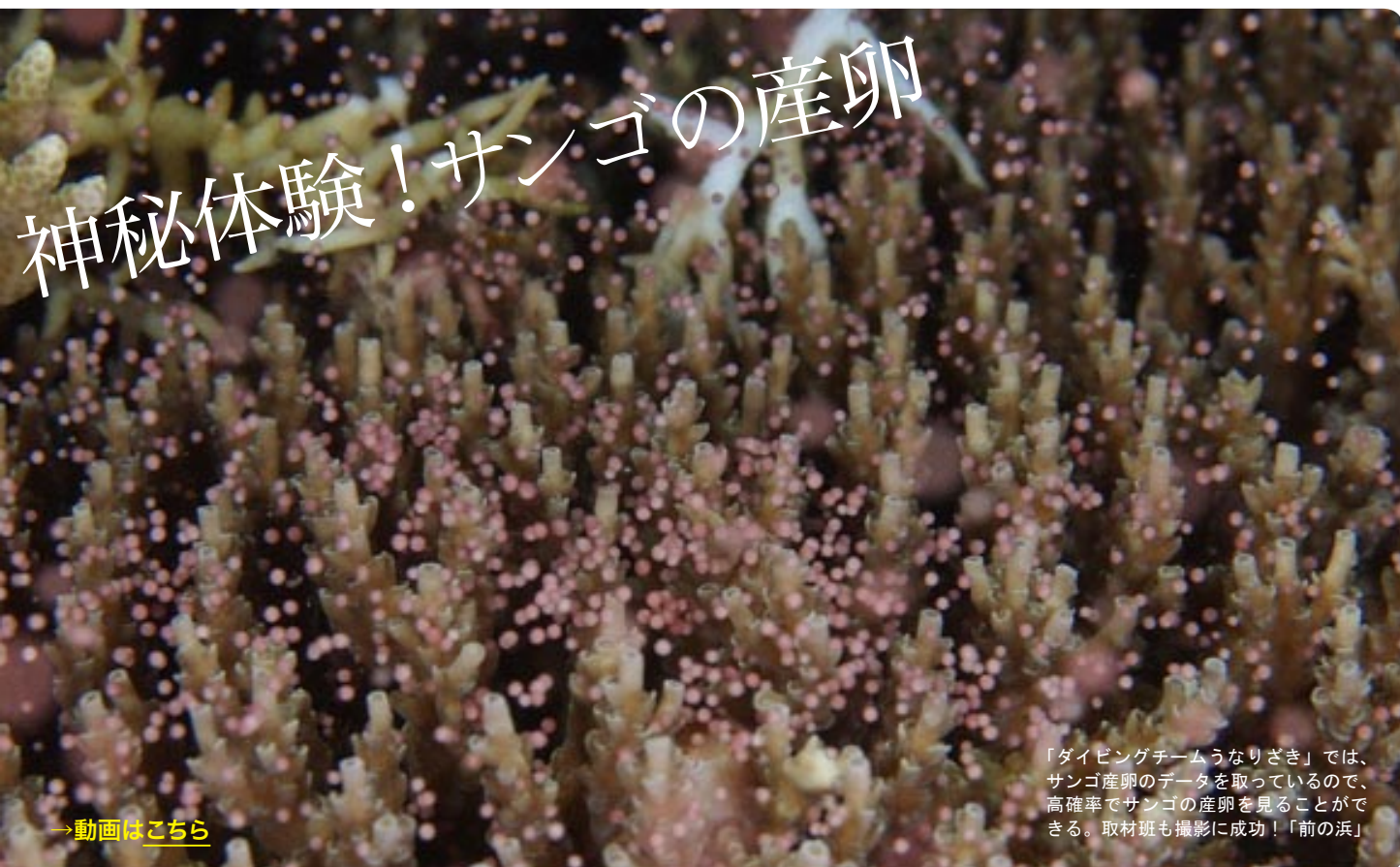
大型ボートで オガンを ガンガン攻める!

オガンが畏れを持って讃えられるのは、選ばれたダイバーしか入海が許されないからだだろう。もっと平易に言えば、そのプレミアム感がオガンのオガンたるゆえんだ。島の周囲は四方にただ海が広がるばかりで、逆に言えば、黒潮の流れる外洋にボツリと島が浮いているだけ。そのため、腕のいい船長を乗せた大型ボートでしか行くことができず、この時点でダイビングサービスに限られる。そんな大型ボートでも1時間ほど時間を要し、風の影響も受けやすく海況が不安定なら行くことすら叶わない。

さらに、海の中はときに激流で、自己管理と50本以上(推奨は100本以上)の経験が求められる。

ダイビングサービス、海況、ダイバー。すべての条件がそろって初めてオガンはその門戸を開く。梅雨明けに吹くカーチパイと呼ばれる南風がおさまると、いよいよ本格的なオガンシーズン。

夏の西表島は、憧れのオガンを潜る最大のチャンス!



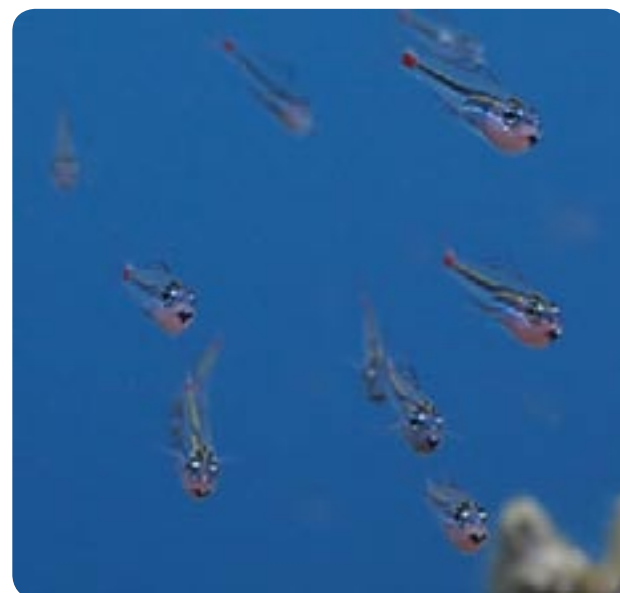
神秘体験！サンゴの産卵

「ダイビングチームうなりざき」では、サンゴ産卵のデータを取っているので、高確率でサンゴの産卵を見ることができる。取材班も撮影に成功！「前の浜」

→動画はこちら



湾の中にはまだまだ手つかずのサンゴが元気いっぱい「崎山湾」



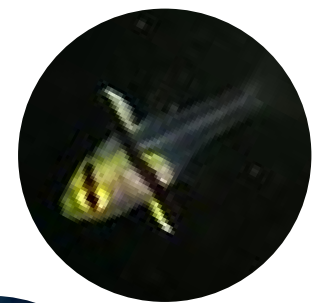
口元がハートのネオンテングダイ 口の中で卵を育てる“口内保育”中のネオンテングダイ。口元がハート型をしていてキュート「I'sエリア」

真夏の西表島はベビーラッシュ！

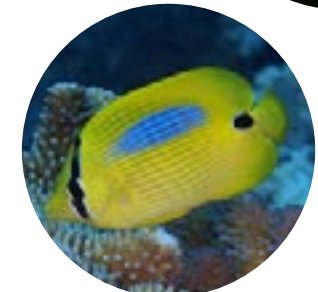
今回はト迫力のオガンをフィーチャーしたが、いろんな表情を持っているのが西表島の最大の魅力。白化が問題となっている沖縄のサンゴ礁も西表島ではまだまだ元気、チョウチョウウオをはじめサンゴを住みかとするトロピカルフィッシュがたくさん見られる。オガンのような濃紺の海もあれば、クリスタルブルーの南国の世界もまた西表島の海なのだ。

そんな南国の海は夏がベビーラッシュ。6〜7月は幼魚が最も多く見られ、サンゴの産卵は9月まで期待できる。

1年で最もコンディションが安定する夏のシーズン。外洋に浮かぶオガン、さらに南に位置する波照間島など、普段なかなかアクセスすることのできない遠征ダイブにも行きやすくなる。魚種も増え、命煌めくのもやはりこの時期。最高の海に、いよいよ最高のシーズンがやってきた！



西表島のアイドルといえばマンジュウイシモチ。この時期は幼魚のマンジュウ“チビ”モチが見られる「I'sエリア」

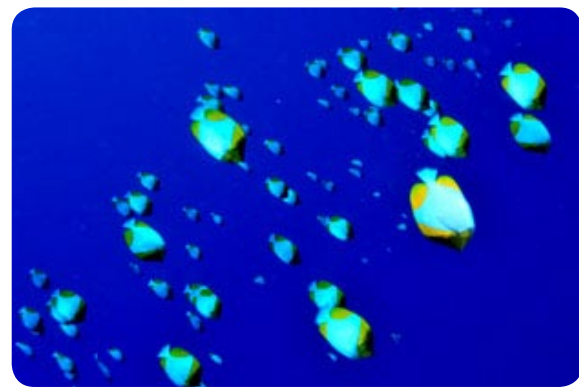


スミツキトノサマダイの幼魚。サンゴ礁のスポットには、チョウチョウウオの仲間がいっぱい！「崎山・沖の根」



八重山の海でよく見られるインガキカエルウオの赤ちゃん、“チビ”ガキカエルウオ「I'sエリア」

オガンだけじゃない、西表島の魅力



チョウチョウウオ天国の西表島の海。中層にはカスミチョウチョウウオが群れ南国ムードを演出する「崎山・沖の根」



「ハナゴイの根」というスポット名とおり、ハナゴイやハナダイが群れ華やかな雰囲気。根の上にはカメがよく寝ている

いざ、真夏の西表島へ!



ILMARE UNARIZAKI

イルマーレ ウナリザキ

ダイビング施設併設はもちろん、注目すべきは全40室のうち半分以上を占めるシングルルーム。シングルチャージがないので、一人で潜りに来る人やプライベート空間を持ちたい人にぴったり。洗濯機も完備で、まさに“ダイバーによるダイバーのための施設”。専用シェフが作る食事大好評。

<http://www.unarizaki.com/ilmare/>



大自然の中で過ごす西表島ライフ

西表島には民宿から隠れ家的リゾートまで、さまざまなタイプの宿泊施設があり、「みんなでワイワイ」、「プライベートを大事に」など目的に合わせて選択が可能だ。

西表島の長い夜は宿でのんびり過ごすか、サービスのクラブハウスや行き着けの飲食店で盛り上がるのが一般的。一緒に潜ったダイバー同士が集まればすぐに意気投合。こんな出会いも楽しみのひとつだ。“ゆったりとした時間を贅沢に過ごす”これが西表島の正しい過ごし方。

反対に、最終日は少々アクティブに動いてみていいだろう。“東洋のガラパゴス”と呼ばれるネイチャーアイランド、西表島。シーカヤックや遊覧船で、マングローブに縁どられたアマゾンのような川を探検したり、滝を目指してトレッキングしたりと、海だけでなく陸上の大自然も体感してほしい。飛行機の時間をちよっと遅めにし、ぜひとも参加してみよう。ベストシーズンの西表島。海も陸も丸ごと楽しもう!

今回、取材班をナビゲートしてくれたサービスはコチラ!



ダイバーからの信頼の厚い老舗サービス。ホテルとサービスが一体化したスタイルで、コンパクトな範囲で快適に過ごすことができる。遠征も可能な大型ポート3艇と小回りのきく小型ポート1艇で、目的やレベルによってチーム分けしてくれるので、どんなダイバーでも快適に過ごせること間違いなし!

■詳細は→[こちら](#)

<http://unarizaki.com/iriomote/>



VILLA UNARIZAKI

ヴィラうなりざき

緑と海の囲まれた、オーシャンフロントの隠れ家風リゾート。たっぷりとダイビングを楽しんだ後は、西表島の大自然に包まれながら、白亜のコテージで、ワンランク上のラグジュアリーなひととき



<http://www.unarizaki.com/villa/>

和尚のリアルタイム西表島レポートはコチラ!



「ダイビングチームうなりざき」のダイビング後の定番は、バーも兼ねるクラブハウスでロギングタイム。海の話に花を咲かせるときの楽しいひととき

